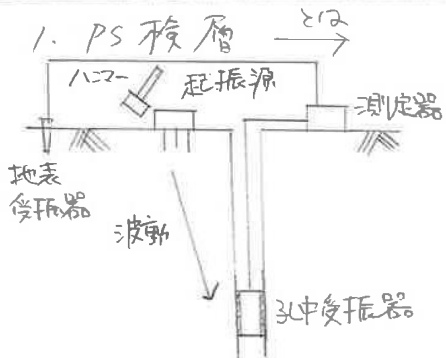


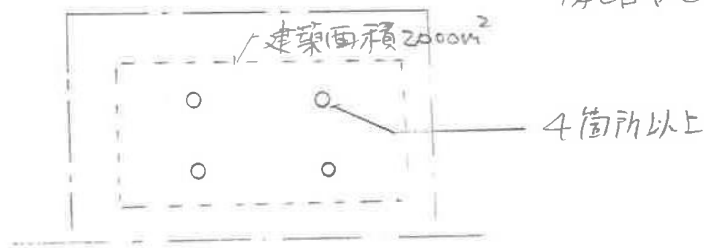
平成26年NO.22地盤調査

1. PS検層 → 超高層建築物の動的応答解析に必要な地盤の動的特性を得るために行う
2. ボーリング調査の数 → 建築面積 300~500m² につき1本を目安とする
3. 孔内水平載荷試験の位置 → 杭頭から5m または 杭径の5倍程度の位置で調査を行う
4. 圧密試験 → 粘性土の圧密による沈下量, 沈下速度, 透水性などを調べる試験

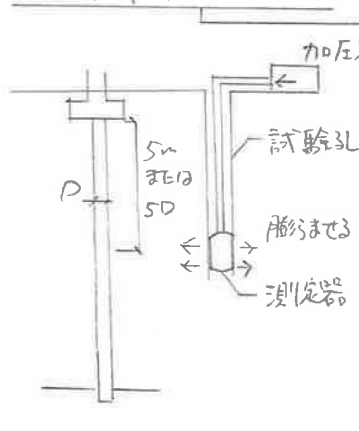


1. PS検層 → 地表面を起振 (T時に生じる波動 (P波, S波)) を
 孔内に設置した受振器で観測して、
 伝播時間と伝播距離の関係から
 弾性波速度 (P波速度, S波速度) を算出
 ↓ 動的解析に用いるために
 地盤の動的弾性係数を得る
 (ポアソン比, ヤング率, 剛性率)

2. ボーリング調査の数 → 建築面積 300~500m² に
 1本を目安とする

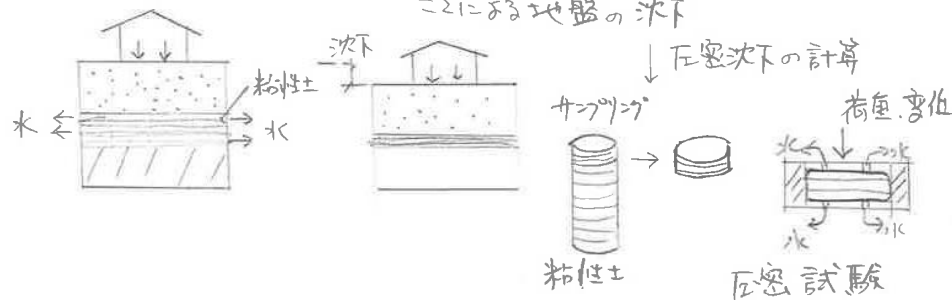


3. 孔内水平載荷試験の位置



→ 杭頭部の曲げモーメントの計算に必要な
 水平地盤反力係数を求める試験
 調査深さは 杭頭から5m または
 杭径の5倍程度の位置
 曲げモーメント
 水平地盤反力係数

4. 圧密試験



圧密沈下とは、粘性土が荷重を受けたとき土の
 間の水が徐々に排水されて体積が減少する
 ことによる地盤の沈下

↓ 圧密沈下の計算

荷重変化
 圧密試験